想い出のさまざま

荒　川　九兵衛

◎盲者不怖蛇

十年ひと昔，月日の流れは本当に速いもので，私達の生み育てた自然科学博物館も30才を迎えようとしています。感無量です。今になって考えてみると，あんな大変な仕事をよくも引き受けたものだとつくづく思います。全く若気の至りで無謀でした。

福井市は，昭和20年に米軍の大空襲のため市街の大部分を焼き盡され，8月には終戦と福井市民にとっては大痛手でした。私達はこの痛手に負けず再興に立ち上り，やれやれと一息入れようとしている矢先に，23年6月には福井大地震に見舞われ，続いて秋には大洪水の洗礼を受けました。まったく重ね重ねの無情の大試練でした。しかし，不死鳥の福井市民は負けずに，歯をくいしばって再興に努めました。そして今日の大福井市の基盤を築いたのでした。

時あたかも，福井市は復興大博覧会を開くことになり，計画は着々と進められました。その中に自然科学博物館の建設が組み込まれ，27年春の博覧会開幕に合わせて開館の予定となり，是が非でもその時までに間に合わせなければならなくなりました。全く晴天のへきれきで，私まで動員される破目となったようです。本当にたった1年余りの短期間によくもあれだけのものが出来上ったものだと，不思議でなりません。これひとえに堀芳孝先生の御指導と，森瀬俊蔵，酒井義一の2君が，献身的に協力して下さったればこそと感謝しています。

今になって思うと，何といっても苦労したのは資料の収集でした。陳列の構想はたてたものの果たしてそれに価する資料が集まるかどうかが不安でした。それに当時の交通機関は汽車，バス，電車を利用するしか方法がなく，徒歩が主だったので苦労しました。ハンマーとタガネをリュックサックに詰め採集地に向かうのですが，帰りには採集品を一ぱい詰め，肩がめり込む程背負って，てくてく歩かねばなりません。途中で肩が痛くてたまらず，折角運んで来た採集資料を袋から取り出して道端においてきたこともしばしばでした。採集は2泊3日が常で，福井県下の隅々まで歩き廻り，どうにか目的を達することができたのです。これも私達が若くて元気だったし，福井県には豊富な資料の埋蔵地が各所に散在し，恵まれていたからでした。

◎資料に恵まれた若越

私達の資料集めスタイルは，巻脚絆に地下足袋でリュックを背負い，ハンマー片手で3人で歩き廻るので，時々山師や大工と間違えられて，家の修理や仕事を頼まれたり，何かいいもの見つかりましたかとたずねられたりすることがあり苦笑させられました。

当時は自家用車もなく，バスをおりると山間の道を辿りながら岩石を集め，鉱山なり宿泊地に向うのですから大変でした。その頃の鉱山は終戦後で，廃山になったものも可なりありましたが，鉱石はまだ残っている所も多く，手に入り易く立派な資料が採集できました。また採掘を続けている鉱山の事務所では，いろいろと親切に鉱山の沿革や事業の将来性などを説明していただき，坑内を

案内してもらったりしました。また，自慢の立派な鉱石を見つけると，博物館の陳列用にと，無理とは思いながらあつかましくもお願いして持ち帰ったこともありました。お陰で貴重な資料が次々と沢山と集まりました。なかでも金米糖石や鉛，銅の鉱石等は特に貴重なものです。

いっぽう福井県は，古生代から新生代に至るまでの地層に恵まれ，極めて古い時代から新しい時代にかけての化石や岩石を集めることができました。

三人で砕石や岩壁を叩いていると，パッと岩が割れて，岩面に見事な化石が浮び出した時の感激，資料室に収納されている一つ一つを手にとる時に，その時の喜びや苦労が今でも思い出されなつかしく思います。これらの資料は，現地で古新聞紙に丁寧に包み，大事に大事にリュックに詰めて，持てるだけ背負って帰路につくのですが，山道を辿るにつれ肩にめり込み，空腹で歩くこともできなくなり，途中で選別して1部を捨てる時の残念な事，しかし次の採集の時再び拾い持ち帰った化石も資料室に保管されていて，手入れをするたびによかったなあと喜びを新たにします。

◎開発と自然破壊

戦後30年代から近年にかけての高度成長の波は，日本のすみずみにまで及び，いろいろと影響をおよぼしていますが，福井県も開発の名のもとに自然は破壊されて，若越もすっかり変貌してしまいました。その功罪は立場や見る人の目によって異なりますが，いろいろと批判されたり，喜ばれたりで世はさまざまです。私達にとっても道路ができたりダムができたりすることは，喜びでもあり悲しみでもありました。博物館が生まれ30年の歩みの間に，ダムが沢山できましたが，工事のため貴重な地層や岩石が新たに発見されてよい化石や岩石もかなり収集できました。しかし大部分の採集地は湖底に沈んだり，岩肌をコンクリートでまかれて採集不可能になってしまい誠に残念でなりません。また，道路は観光，林業の振興の名のもとに各所に作られ山肌を赤く見せており自然は大きく破壊されましたが，その工事のため非常に貴重な化石の産地が新しく発見されたりして，学術上大きな貢献をするなど悲喜こもごもで，功罪は立場や見る人の考え方でいわく言い難しで複雑です。

◎過疎と荒廃

近年は採集にもあまり出ませんが，過疎による山野の荒廃は本当にひどいものです。たまたま開館当時歩き廻った地を訪れる機会があって出かけ，懐しい昔の思い出を辿りたく採集地に行きましても，当時の村はなく村跡はあっても住民はおらず，廃屋は雨曝しになり，語り合う相手もなく本当にさみしくてなりません。また採集地に向って歩き出しても山道は崩れ，つる草が生い茂り背たけを越す雑草や樹木に妨げられて，進むこともできないくらいの荒廃ぶりです。漸く辿り着くことができても，採集地は荒れ果てて資料の採集など不可能になってしまった所が多く，当時を偲びながら残念でなりません。

鉱山も同じことで，現在採掘が続けられているのは中龍鉱山唯一つだけで他は全部コスト高で廃坑となり，施設は一つも残っておらず坑道は崩れ坑内に入れる鉱山は皆無となり資料となるようなものは何も残っていません。廃墟を眺めながら昔を偲ぶだけでした。

時代の流れとはいいながら過疎の傷跡は本当に私達にまで悲しい思いをさせます。資料蒐集の責任を負わされた時期が今日でなくて本当によかったなあとつくづく思っています。熊谷市長が本当

にタイミングよく博物館建設を思いたって下さったことに感謝せずにはおられません。本当にあの項は資料蒐集にはよい時機だったと，つくづく思っています。

◎思い出余談

○一酸化炭素中毒騒ぎ

博物館の建物が完成して未だ日の浅い3月始め項でした。陳列の準備をするために掘先生等と4・5人で部屋を閉め切って仕事に夢中になっていた時でした。急に頭がずきずきして胸も苦しく不快になったので思わず「ああ頭が痛い。」と独言をいうと，皆が一斉に私も私もと大騒ぎになり，部屋の外に出て新しい空気を吸って頭を冷したら楽になりました。あの時，一酸化炭素中毒に気付かずに仕事を続けていたなら30年前にあの世行きになるところだったのです。それもその筈，まだ乾き切らないセメントの狭い部屋に多勢が閉じこもり炭火を燃やしたのだから一酸化炭素中毒を起すのは当然のことで迂闊であったことを反省し，その後は一酸化炭素中毒に関しては鋭敏になりました。

○蛇の化石

下穴馬村（和泉村）貝皿に採集に行った時のことでした。智那洞谷で採集していると，山仕事をしている人が一行に近づいて来られて何をしているのだと尋ねられました。そこで博物館の資料集めの事を話し，採集した化石等を見せたところが，この谷で蛇の化石を拾って持っている人がいてそれは見事なもので蛇がとぐろを巻いているのだということでした。早速その持主の家を尋ね訳を話して見せてもらいました。ところがそれは立派なアンモナイトの化石で貴重な資料でした。礼を盡して博物館に寄付をお願いしましたところ，福井市博物館に保管してもらえるなら寄付しましょうと心よく譲って下さいました。本当に立派な化石で貝皿を訪れる度毎に思い出し，そのお宅の前を通る時は自然に頭がさがります。人の情の有難さをしみじみと感じます。

○自然銅の鉱石

上穴馬方面に採集に行く時は常に大谷で宿泊することに決めていました。宿の主人が私の同級生だったので囲炉裏火で暖まりながら話に花が咲くのでした。特に面谷鉱山の繁栄時代の話は興味も深く，非常にくわしく聞くことができました。それで鉱山跡を訪れた時は，昔を偲ぶことができ，いろいろと参考になり有難いことでした。

また，たまたま持穴で植物化石を採集している際に，立派な銅の鉱石を持っている方が持穴におられる噂を聞き，早速その方の家を訪れて，面谷鉱山の話を聞かせてもらうと共に記念に持っておられた立派な鉱石をゆずって頂きました。本当に素晴しい鉱石で，今も陳列ケースの目玉の一つとして並べられている貴重な鉱物資料です。もしあの時寄付してもらえなかったら何処へ持ち去られていたことでしょう。（註：上穴馬村は九頭龍湖建設のため平坦な居住地区は殆ど湖底に沈み，住民は各方面に移住して和泉村には殆ど住んでいません。）

○三葉虫の化石

三葉虫の化石発見さわぎは三回ありました。最初は西谷村の上秋生（大野市）で約2米もある大三葉虫だったと言うことで，早速現地に行って探しましたが見当たらず，数回の探訪も何の成果を見ず残念でした。

2回目は，大野市の釣りマニヤの酒屋さんが，やはり上秋生でいわな釣りに行って発見されたとの事で大騒ぎとなり，早速大野市の教育委員会の方達と採集に向かいましたが，発見者の酒屋さんは急死され一緒に居た方はそんなものに余り興味を持っていない方だったので発見した谷を忘れてしまって，とうとう無駄骨折で終りました。

ところが，3回目は上伊勢（和泉村）でとうとう3回目の正直で現実となって採集されて貴重な学術上の資料ができましたが，残念なことには福井市博物館にはありません。

◎採集余話

○まむしと荒縄

山地で採集するときに一番困るのが，ブユやアブに刺されることです。手で払っても払ってもうるさく付きまといますが，煙には弱いので土地の人達は煙の出る火縄を腰に下げて作業すると妙に近づいて来ないものです。

何と言っても怖いのは熊に出合うことです。しかし熊は音に弱いのだろうか，音の出る装備を身につけるか大声で話しながら山歩きをすると熊の方から人間をさけてもらえるようです。

次に怖いのは蛇で特に「まむし」には気をつけなければ大変なことになります。ところが，千葉大学の前田四郎先生は，いつも山歩きをする時には，地下足袋に荒縄を巻き結んでおられたので，滑り止めだとばかり思っておりました。ところが滑り止めにも役立つが「まむし」の咬傷防除になるのだと教えて下さった。先生は毎年夏になると山に入っておられたが，或古老に教えられてそれ以来常に結び付けるようになりお陰で「まむし」の咬傷の心配がなくなり大助かりですとのこと，私にも奨めて下さったので荒縄を巻きつけることにしました。そのためか「まむし」の難に会うことはありませんでした。

○奥越の宿

現在は奥越の各地にはレストランやホテル，民宿などがあって極めて便利ですが，当時はせいぜいで商人宿が村の役場所在地に1・2軒あっただけでした。したがって宿はいつも自然と同じ宿に決まってしまいます。しかしどの宿に泊っても，夕食に出される淡水魚の料理の美味さには驚かされたものです。食後は囲炉裏をかこみ四方山の話で時刻の経つのも忘れて話し込んだこともなつかしい思い出の1つです。しかし当時の人々はもう殆どこの世には生きてはおられないでしょう。

あれから約30年。この30年の歳月は無情なものです。また過疎にも勝つことが出来なかったのでしょう。人々は散り散りに移り住み，集落は湖底に沈みその跡さえ分らぬ所。或は廃墟となり石積みだけが当時の面影をとどめているもの。その地に立つと過ぎ去った昔のいろいろの事が想い出され感無量で涙をさそうこともしばしばです。懐しい想い出の人々は，今も私の心の中に生きています。

○石徹白

石徹白は和泉村の朝日から約15粁入った所にある村で，現在は町村合併で岐阜県の白鳥に編入しました。しかし石徹白の高原は本当に素晴しい所です。昔から娘達は京の公卿屋敷に奉公に出て，帰郷して結婚するのが習慣となっていたので，京都訛りで風俗も他の山村と違って野良仕事にでる時でも化粧しているそうです。

比の地を訪れた人でなければ味わうことのできない格別の情緒がありました。折をみて是非訪ねて見て下さい。雑踏する観光地より遙かに味わい深い別天地です。

（福井市立郷土自然科学博物館協議委員）